
石井進年譜

1931年（昭和6年）

7月2日 東京市に生まれる。

1950年（昭和25年）

4月 東京大学教養学部文科二類入学。

1952年（昭和27年）

4月 東京大学文学部国史学科進学。

1955年（昭和30年）

3月 東京大学文学部国史学科卒業。

4月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程修士課程入学。

1957年（昭和32年）

3月 同課程修了。文学修士。

4月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程入学。

1960年（昭和35年）

4月 東京大学史料編纂所文部事務官。

1962年（昭和37年）

4月 東京大学史料編纂所助手。

1964年（昭和39年）

11月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程修了。文学博士の学位取得。

1967年（昭和42年）

4月 東京大学文学部講師。大学院人文科学研究科担当。

1970年（昭和45年）

3月 東京大学文学部助教授。

1977年（昭和52年）

3月 東京大学文学部教授。

1992年（平成4年）

3月 東京大学文学部教授を停年により退任。

4月 国立歴史民俗博物館歴史研究部教授。同館企画調整官を併任。

1993年（平成5年）

1月24日より国立歴史民俗博物館長事務取扱。

3月 国立歴史民俗博物館長。

1997年（平成9年）

8月31日を以て国立歴史民俗博物館長を退職。

10月 国立歴史民俗博物館名誉教授。

石井進著作目録

I 著書

- 1 『鎌倉幕府』(『日本の歴史』7) 中央公論社 1965年8月。のちペーパーバック判, 文庫判も刊行
- 2 『日本中世国家史の研究』岩波書店 1970年7月
- 3 『中世武士団』(『日本の歴史』12) 小学館 1974年12月。のち「日本史の社会集団3」として1990年5月に改訂, 文庫判を刊行
- 4 『もうひとつの鎌倉——歴史の風景』そしえて 1983年7月
- 5 『鎌倉武士の実像——合戦と暮しのおきて』平凡社 1987年6月
- 6 『中世を読み解く——古文書入門』東京大学出版会 1990年11月
- 7 『中世史を考える——社会論・史料論・都市論』校倉書房 1991年6月
- 8 『私本 塵芥抄』私刊 1992年3月

II 共著

- 1 『中世政治社会思想』上(『日本思想大系』21) 石母田正・笠松宏至・勝俣鎮夫・佐藤進一諸氏と共に校注・解題を執筆 岩波書店 1972年10月
- 2 『中世の風景』上・下(『中公新書』608・613) 阿部謹也・網野善彦・樺山紘一諸氏と共同討議 中央公論社 1981年4月・5月
- 3 『中世の罪と罰』網野善彦・笠松宏至・勝俣鎮夫諸氏と共同討議及び分担執筆 東京大学出版会 1983年11月
- 4 『沈黙の中世』網野善彦・福田豊彦両氏と共同討議 平凡社 1990年10月
- 5 『歴史家の夢——新しい博物館をめざして』(『歴博ブックレット』2) 網野善彦・宮田登・都出比呂志・佐野みどり・青柳正規諸氏との対談を収録 歴史民俗博物館振興会 1997年8月

III 編著・共編著

- 1 『新編 日本史研究入門』佐々木潤之介氏と共編 東京大学出版会 1982年3月
- 2 『源氏と平氏——東と西』(『週刊朝日百科 日本の歴史』1) 網野善彦氏と共編著 朝日新聞社 1986年4月
- 3 『中世の村を歩く——寺院と荘園』(『週刊朝日百科 日本の歴史』2) 朝日新聞社 1986年4月
- 4 『中世の人と政治』吉川弘文館 1988年7月
- 5 『中世の都市と墳墓——の谷遺跡をめぐる』網野善彦氏と共編 日本エディタースクール出版部 1988年8月
- 6 『都市と景観の読み方』(『週刊朝日百科 日本の歴史別冊 歴史の読み方』2) 朝日新聞社 1988年9月
- 7 『武士の都鎌倉』(『よみがえる中世』3) 大三輪龍彦氏と共編 平凡社 1989年4月
- 8 『考古学の中世史研究』(『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集』1) 名著出版 1991年6月
- 9 『中世の村落と現代』吉川弘文館 1991年9月
- 10 『中世をひろげる——新しい史料論をもとめて』吉川弘文館 1991年11月
- 11 『中世の城と考古学』萩原三雄氏と共編 新人物往来社 1991年12月
- 12 『長福寺文書の研究』山川出版社 1992年1月
- 13 『都と鄙の中世史』吉川弘文館 1992年3月
- 14 『中世の法と政治』吉川弘文館 1992年7月
- 15 『中世都市と商人職人』(『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集』2) 網野善彦氏と共編 名著出版 1992年10月
- 16 『鎌倉の仏教』貫達人氏と共編 有隣堂 1992年11月

-
- 17 『中世の村と流通』 吉川弘文館 1992年12月
 - 18 『中世社会と墳墓』(『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集』3) 萩原三雄氏と共編 名著出版 1993年7月
 - 19 『中世のムラ——景観は語りかける』 東京大学出版会 1995年3月
 - 20 『中世資料論の現在と課題』(『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集』4) 網野善彦・谷口一夫両氏と共編 名著出版 1995年6月
 - 21 『中世の村を訪ねる』(『朝日百科』日本の歴史別冊 歴史を読みなおす)9) 朝日新聞社 1995年6月
 - 22 『中世から近世へ』(『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集』5) 網野善彦・萩原三雄両氏と共編 名著出版 1996年2月
 - 23 『中世日本列島の地域性』(『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集』6), 網野善彦・鈴木稔両氏と共編 名著出版 1997年1月

IV 監修

- 1 『北の中世——史跡整備と歴史研究』 中世の里シンポジウム実行委員会編 日本エディタースクール出版部 1992年1月
- 2 『眞壁氏と眞壁城——中世武家の拠点』 茨城県眞壁町編 河出書房新社 1996年6月
- 3 『よみがえる角牟礼城』 大分県玖珠町編 新人物往來社 1997年3月

V 学位論文等

大学卒業論文「大宰府機構変質過程の一考察——大宰府守護所成立の歴史的前提」 1954年12月提出
 修士論文「鎌倉幕府と律令制度地方行政機構との関係」 1956年12月提出
 博士論文「鎌倉幕府と律令国家の関係についての研究」 1962年12月提出

VI 論文等

- 1 「書評・林屋辰三郎『古代国家の解体』」 山口昌男氏と共同執筆 『史学雑誌』65-1 1956年1月
 - 2 「回顧と展望・1956年の歴史学界(封建前期1)」 『史学雑誌』66-5 1957年5月
 - 3 「鎌倉幕府と律令制度地方行政機関との関係——諸国大田文の作成を中心として」 『史学雑誌』66-11 1957年11月。のちI-2所収
 - 4 「大宰府機構の変質と鎮西奉行の成立」 『史学雑誌』68-1 1959年1月。のちI-2所収
 - 5 「14世紀初頭における在地領主法の一形態——「正和2年宗像社事書条々」おぼえがき」(1)・(2)・(3) 『中世の窓』1.2.3. 1959年1月, 8月, 11月。のちI-2所収
 - 6 「鎌倉幕府と律令国家——国衙との関係を中心として」 石母田正・佐藤進一共編『中世の法と国家』 東京大学出版会 1960年3月。のちI-2所収
 - 7 「惣領制の成立は平安期にさかのぼりうるか——長寛3年清原兼次讓状の検討」 『中世の窓』6 1960年10月
 - 8 「『吾妻鏡』の欠巻と弘長2年の政治的陰謀(?)」 『中世の窓』8 1961年4月。のちI-5所収
 - 9 「平氏・鎌倉両政権下の安芸国衙」 『歴史学研究』257 1961年9月
 - 10 「平安後期——鎌倉時代」 遠山茂樹・佐藤進一共編『日本史研究入門II(1955-60)』 東京大学出版会 1962年3月
 - 11 「志太義広の蜂起は果たして養和元年の事実か」 『中世の窓』11 1962年11月。のちI-5所収
 - 12 「鎌倉幕府論」 『岩波講座 日本歴史 中世I』 岩波書店 1962年12月
 - 13 「『政基公旅引付』にあらわれた中世村落」 『中世の窓』13 1963年11月
 - 14 「平家物語の周辺——一の谷合戦河原兄弟討死の物語をめぐって」 『古典の窓』6 1964年3月
 - 15 「日本中世国家論の諸問題」 『日本史の研究』46 1964年5月。のちI-2所収
 - 16 「歴史的背景」 角川書店版『日本絵巻物全集IX 平治物語絵巻・蒙古襲来絵詞』 1964年12月
 - 17 「金沢文庫古文書にあらわれた鎌倉幕府下の武蔵国衙」 『金沢文庫研究』111 1965年4月
 - 18 「『古今著聞集』の鎌倉武士たち」 『日本古典文学大系月報』第2期24回 1965年3月。のちI-5所収
 - 19 「鎌倉時代「守護領」研究序説」 宝月圭吾先生還暦記念会編『日本社会経済史研究 古代・中世編』
-

-
- 吉川弘文館 1967年10月のちI-2所収
- 20 「文治守護地頭」試論『史学雑誌』77-3 1968年3月。のちI-2所収
- 21 「回顧と展望・1967年の歴史学界(中世1・2)」『史学雑誌』77-5 1968年5月
- 22 「金沢文庫と『吾妻鏡』をめぐって」『国民の歴史月報』8 1968年7月。のちI-5所収
- 23 「書評・中尾亮編『中山法華経寺史料』」『史学雑誌』78-1 1969年1月。のち一部をI-7所収
- 24 「回顧と展望・1968年の歴史学界(中世1・2・3・4)」『史学雑誌』78-5 1969年5月
- 25 「九州諸国における北条氏所領の研究」竹内理三博士還暦記念会編『荘園制と武家社会』吉川弘文館 1969年6月
- 26 「中世成り期軍制研究の一視点——国衛を中心とする軍事力組織について」『史学雑誌』78-12 1969年12月。のちI-5所収
- 27 「鎌倉時代の常陸国における北条氏所領の研究」『茨城県史研究』15 1969年12月
- 28 「院政時代」歴史学研究会・日本史研究会共編『講座日本史 2 封建社会の成立』東京大学出版会 1970年5月
- 29 「回顧と展望・1969年の歴史学界(中世1・2)」『史学雑誌』79-6 1970年6月
- 30 「谷殿永忍考」『金沢文庫研究』170 1970年6月
- 31 「『鹿子木庄事書』の成立をめぐって」『史学雑誌』78-7 1970年7月。のちI-7所収
- 32 「『竹崎季長絵詞』の成立」『日本歴史』273 1971年2月。のちI-7所収
- 33 「日本史における「中世」の発見とその意味」『創文』93 1971年2月。のちI-7所収
- 34 「院政期の国衛軍制」『法制史研究』20 1971年3月。のち一部をI-5所収
- 35 「書評・上横手雅敬著『日本中世政治史研究』」『史学雑誌』80-3 1971年3月
- 36 「源頼朝の文書三通をめぐって」『鎌倉遺文月報』1 1971年11月
- 37 「書評・佐藤進一著『増補 鎌倉幕府守護制度の研究』」『史学雑誌』81-2 1972年2月
- 38 「書評・竹内理三編『鎌倉遺文 古文書編 第1巻』」『史学雑誌』81-4 1972年4月
- 39 「霜月騒動おぼえがき」『神奈川県史だより』4 1973年3月。のちI-5所収
- 40 「古文書学と歴史学とのあいだ」『史学雑誌』82-3 1973年3月。のちI-7所収
- 41 「淡路国大田文のこと」『栃木県史史料編 中世1月報』1973年3月
- 42 「回顧と展望・1972年の歴史学界(中世1・3)」『史学雑誌』82-5 1973年5月
- 43 「日本の封建制と西欧の封建制」堀米庸三編『歴史学のすすめ』筑摩書房 1973年5月。のちI-7所収
- 44 「中世国衛領支配の構造」『信濃』25-10 1973年10月
- 45 「回顧と展望・1974年の歴史学界(中世1・2・3)」『史学雑誌』84-5 1973年5月
- 46 「中世社会論」『岩波講座日本歴史 中世4』岩波書店 1976年10月。のちI-7所収
- 47 「中世の政治経済I」『岩波講座日本歴史 別巻3 日本史研究の現状』岩波書店 1977年6月
- 48 「天永2年の伊勢神宮領注進状」『日本歴史』350 1977年7月
- 49 「中世の居館址と河川」『千曲』15 1977年11月
- 50 「平家没官領と鎌倉幕府」中世の窓同人編『論集中世の窓』吉川弘文館 1977年12月
- 51 「書評・キャメロン=ハースト『院政』(英文)」『ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・スタディーズ』4-1 1978年
- 52 「日本中世の性格——日本の学界における論争」(独文)『ポッフム大学東アジア研究年報1979』1979年
- 53 「回顧と展望・1978年の歴史学界(中世1)」『史学雑誌』88-5 1979年5月
- 54 「中世都市鎌倉と若宮大路」『神道大系月報』8 1979年8月
- 55 「院政時代の伊賀国大田文断簡」『史学雑誌』88-9 1979年9月
- 56 「中世都市鎌倉研究のために——大三輪龍彦氏の近業によせて」『三浦古文化』26 1979年11月
- 57 「書評・義江彰夫『鎌倉幕府地頭職成立史の研究』」『史学雑誌』89-6 1980年6月
- 58 「越後国奥山庄と荒河保との境界をめぐって——井上鋭夫氏説への一、二の検討」『かみくひむし』39 1980年9月
-

-
- 59 「中世の山・川の民と境界」 井上鋭夫著『山の民・川の民』への解説 平凡社 1981年2月
- 60 「都市鎌倉における「地獄」の風景」 御家人制研究会編『御家人制の研究』 吉川弘文館 1981年7月
- 61 「関東御領研究ノート」『金沢文庫研究』267 1981年9月
- 62 「「那摩孫三郎戒状」をめぐって」『信濃』33-12 1981年12月
- 63 「中世都市としての鎌倉」Ⅲ-1所収 1982年3月
- 64 「回顧と展望・1981年の歴史学界（中世1・2）」『史学雑誌』91-5 1982年5月
- 65 「関東御領覚え書」『神奈川県史研究』50 1983年3月
- 66 「新しい歴史学」への模索——網野善彦氏の「無縁・公界・衆」をめぐって」『歴史と社会』2 リプロポート 1983年5月。のちⅠ-7所収
- 67 「主従の関係」『講座日本思想 3 秩序』 東京大学出版会 1983年12月
- 68 「幻の奥山庄絵図」『新潟県史資料編 中世3』月報 1984年3月
- 69 「坂と境」『漂泊と定住（日本民俗文化大系6）』 小学館 1984年
- 70 「院政」のうち第2節-第5節と「平氏政権」 井上光貞他編『日本歴史大系』第1巻 山川出版社 1984年9月
- 71 「中世窯業の諸相」 永原慶二他編『講座日本技術の社会史』第4巻 日本評論社 1984年12月
- 72 「武士団の形成」(英文) 『アクタ・アジアティカ』49 東方学会 1985年。のち日本文にしてⅠ-5所収
- 73 「回顧と展望・1984年の歴史学界（中世1）」『史学雑誌』94-5 1985年5月
- 74 「鎌倉から出土した最初の本簡」『日本歴史』449 1985年10月
- 75 「中世イエ社会の成立」 竹村卓二編『日本民俗社会の形成と発展』 山川出版社 1986年5月。のち一部をⅠ-5所収
- 76 「中世の六浦」『神奈川県地域史研究』3・4合併号 1986年6月
- 77 「「中世的世界の形成」と私」『歴史学研究』556 1986年7月。のちⅠ-7所収
- 78 「中世六浦の歴史」『三浦古文化』40 1986年11月
- 79 「一の谷遺跡と中世都市」『歴史手帖』14-11 1986年11月
- 80 「木簡から見た中世都市「草戸千軒町」」『国史学』130 1986年11月
- 81 「荘園村落遺跡調査が指すもの」『大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館研究紀要』4 1987年3月
- 82 「罪と祓」 朝尾直弘他編『日本の社会史5 裁判と規範』 岩波書店 1987年5月
- 83 「親鸞と妻恵信尼」『大乘仏典（中国・日本篇）22 親鸞 月報』3 中央公論社 1987年8月
- 84 「銭百文は何枚か」『信濃』40-3 1988年3月。のちⅠ-7所収
- 85 「源平争乱期の八条院領——「八条院庁文書」を中心に」 永原慶二他編『日本中世史研究の軌跡』 東京大学出版会 1988年4月
- 86 「源平争乱期の八条院周辺——「八条院庁文書」を手がかりに」Ⅲ-4所収 1988年7月
- 87 「中世都市見付と「一の谷墓地」」Ⅲ-5所収 1988年8月
- 88 「中世木簡の一形態——山札・茅札についての覚書」『木簡研究』10 1988年11月
- 89 「後日、文書を書き改めるということ」『ぐんしょ』3 1989年1月。のちⅠ-7所収
- 90 「偽文書と「正文」との間」『日本歴史』500 1990年1月。のちⅠ-7所収
- 91 「『町誌』を読んで中世の由布院を考える」『玖珠郡史談』24 1990年3月
- 92 「大田荘旧域における名の伝承」『国立歴史民俗博物館研究報告』28 1990年3月
- 93 「相模国」「大庭御厨」 永原慶二他編『講座日本荘園史』5 吉川弘文館 1990年5月
- 94 「鎌倉幕府の衰頽」(英文) 『ケンブリッジ日本史』3 ケンブリッジ大学出版部 1990年5月。のちM・ジャンセン編『日本における武士支配』(1995年)に収録
- 95 「中世の村と祭り」『大系日本歴史と芸能7 宮座と村』 平凡社 1990年6月
- 96 「日本の中世都市」『歴史と社会』10 リプロポート 1990年9月
-

-
- 97 「歴史のなかの川」『そしえて21』1 そしえて 1990年9月
- 98 「比企一族と信濃、そして北陸道」黒坂周平先生喜寿記念論文集『信濃の歴史と文化の研究』(1) 1990年11月
- 99 「荘園の領有体系」永原慶二他共編『講座日本荘園史』2 吉川弘文館 1991年2月
- 100 「中世史と考古学」Ⅲ-8所収 1991年6月
- 101 「日蓮遺文紙背文書」の世界——「双紙要文」紙背文書を中心に」小川信編『中世古文書の世界』吉川弘文館 1991年7月
- 102 「中世と考古学——地域研究の視点」Ⅳ-1所収 1992年1月
- 103 「鎌倉の町屋から戦国の町屋へ」Ⅲ-15所収 1992年10月
- 104 「一の谷中世墳墓群の背景としての遠江国府」『国立歴史民俗博物館研究報告』50 1993年2月
- 105 「鎌倉時代中期の千葉氏——法橋長專の周辺」『千葉県史研究』1 1993年2月
- 106 「大祝信重解状のこと」『諏訪市史研究紀要』5 1993年2月
- 107 「中世墓研究の課題」Ⅲ-18所収 1993年7月
- 108 「通史・12-13世紀の日本——古代から中世へ」『岩波講座 日本通史 中世1』岩波書店 1993年11月
- 109 「一の谷中世墳墓群遺跡の歴史的背景」磐田市教育委員会『一の谷中世墳墓群遺跡 本文編』1993年
- 110 「一の谷中世墳墓群の周辺」『歴史手帖』21-12 1993年12月
- 111 「武藏国橋御厨は実在したか」『日本荘園データベースの作成と利用に関する研究 平成5年度研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書』1994年3月
- 112 「文献からみた中世都市鎌倉」鎌倉考古学研究所編『中世都市鎌倉を掘る』日本エディタースクール出版部 1994年5月
- 113 「矢原御厨についての古文書の解説」『信濃』47-2 1995年2月
- 114 「国東の荘園の魅力」Ⅲ-19所収 1995年3月
- 115 「中世史研究と日本民俗学」『成城大学民俗学研究所紀要』19 1995年3月
- 116 「中世を活かしたまちづくり」『歴史手帖』23-5 1995年5月
- 117 「復元された戦国の城下町 一乗谷」網野善彦・石井共編『中世の風景を読む』4 日本海交通の展開』新人物往来社 1995年6月
- 118 「文書資料論」Ⅲ-20所収 1995年6月
- 119 「地方都市としての国府」中世都市研究会編『古代から中世へ——中世都市研究2』新人物往来社 1995年9月
- 120 「社会史の課題」『岩波講座 日本通史 別巻1』岩波書店 1995年10月
- 121 「紀伊国隔田荘研究の課題」『国立歴史民俗博物館研究報告』69 1996年3月
- 122 「眞壁城跡の国指定に寄せて」Ⅳ-2所収 1996年6月
- 123 「鎌倉武士と館」佐原真他編著『城の語る日本史』朝日新聞社 1996年10月
- 124 「中世都市鎌倉の構造」『解放研究』10 東日本部落解放研究所 1996年12月
- 125 「戦乱の世から平和の時代へ」Ⅳ-3所収 1997年3月
- 126 「中世の古文書を読む——建治元年六条八幡宮造営注文の語るもの」国立歴史民俗博物館編『新しい史料学を求めて』吉川弘文館 1997年3月
- 127 「中世の諏訪信仰と諏訪氏」『文化財信濃』24-2 1997年9月
- 128 「商人と市をめぐる伝説と実像」『フォーラムのまとめ』国立歴史民俗博物館編『中世商人の世界——市をめぐる伝説と実像』日本エディタースクール出版部 1998年4月
-